

令和 5 年 9 月 20 日現在

機関番号：62501

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H05509

研究課題名（和文）考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明

研究課題名（英文）Elucidating the history of Yaponesian based on Archaeological data

研究代表者

藤尾 慎一郎（Fujio, Shinichiro）

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：30190010

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 40,800,000円

研究成果の概要（和文）：これまで渡来系弥生人は、在来（縄文）系弥生人と現代韓国人と同じ核ゲノムをもつ青銅器文化人との混血によって生まれると考えられてきたが、本研究の結果、青銅器文化人の核ゲノムは現代韓国人と同じではなく、むしろ、渡来系弥生人や中国北部の青銅器文化人に近いことが明らかになった。この成果は、現代日本人成立のメカニズムを説明する埴原和郎の二重構造論に再考を促すものである。またこれまで古人骨を対象としたDNA分析が考古学的な調査によって得られる学際的研究に与える成果としては、親族関係の復元が主流であったが、本研究によって、DNA分析結果と縄文系や弥生系といった土器の系統との間に関連がある可能性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代日本人の核ゲノムには、縄文人由来の核ゲノムが10～12%程度、含まれているが、それ以外はすべて、弥生時代以降に大陸から入ってきたゲノムである。弥生時代になって、縄文人の子孫である在来（縄文）系弥生人と渡来人との混血によって、渡来系弥生人が誕生すると考えられてきた。ところが本研究の結果、渡来系弥生人が誕生するには、上記のように混血する場合のほかに、混血しなくてもよい場合があることがわかった。それはもともと朝鮮半島の新石器時代に存在した、渡来系弥生人の核ゲノムに類似する新石器時代人の子孫の場合である。また混血する場合でも、中国北部系の核ゲノムを持つ人と混血する必要があることもあきらかになった。

研究成果の概要（英文）：Until now, it has been thought that the Yayoi people of immigrant origin were born through interbreeding between indigenous (Jomon) Yayoi people and Bronze Age culture people with the same nuclear genome as modern Koreans. However, the results of this study revealed that the nuclear genome of Bronze Age culture people is not the same as modern Koreans, but rather closer to the Yayoi people of immigrant origin and Bronze Age culture people in northern China. This finding calls for a reassessment of Habara Kazuo's dual structure theory, which explains the mechanism behind the formation of modern Japanese people.

In addition, while the main focus of interdisciplinary research using ancient human bones for DNA analysis has been on the reconstruction of kinship relationships, this study has revealed the possibility of a correlation between DNA analysis results and the lineage of pottery, such as Jomon and Yayoi.

研究分野：先史考古学

キーワード：核ゲノム ミトコンドリアDNA 渡来系弥生人 在来（縄文）系弥生人 西遼河系 古代東アジア沿岸集団 炭素14年代測定 二重構造説

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

これまで渡来系弥生人は、在来(縄文)系弥生人と現代韓国人と同じ核ゲノムをもつ青銅器文化人との混血によって生まれると考えられてきたので、在来(縄文)系弥生人と韓国青銅器時代人、渡来系弥生人のDNA分析を行うことによって、その成立過程を明らかにする。

またこれまで先史時代の親族関係については、歯冠計測などの形質人類学的方法で行われてきたが、これでは他人のそら似を取り除くことができないことから、DNA分析の必要性が叫ばれてきた。

幸い、2010年ごろから急速に普及した次世代シーケンサーの登場により全ゲノム解析が時間的にも経費的にも可能になってきたので、本プロジェクトでの活躍が期待される。

2. 研究の目的

渡来系弥生人の成立過程と、縄文、弥生、古墳時代の親族構造をDNA分析によって明らかにする。

3. 研究の方法

日本、および韓国から出土した先史時代の人骨からコラーゲンを抽出し、AMS 炭素14年代測定、同位体比分析、DNA分析を行う。これらの結果を総合的に分析して研究の目的を達成する。

4. 研究成果

最終年度の2022年度は、昨年度まで集めていた人骨資料のうち、未測定だったものの分析・調査に加えて、中部・関東南部への渡来系弥生人の進出時期を調べるために、新たに長野(塩崎遺跡群)、群馬(有馬条里遺跡ほか)、神奈川(池子遺跡)の弥生人骨の調査を行った。また縄文時代は岩手県蝦島貝塚出土人骨のミトコンドリアDNA分析、古墳時代は鳥取県内古墳出土人骨の継続調査を行った。これらの調査結果は、2024年度に発表予定である。

2022年度は、論文3本、研究ノート・調査報告11本、学会発表3本により調査成果を発信するとともに、資料提供者を対象とした報告会を、熊本、米子、鹿児島において実施した。時代ごとの主な成果は以下の通りである。

縄文時代人骨については、岩手県蝦島貝塚から出土した縄文晩期の人骨を対象に、DNA分析を行ったところ、これまで行われてきた形態小変異に基づいて復元された親族構造とは合わない場合のあることが明らかになった。

弥生時代については、埴原和郎の二重構造説に基づく渡来系弥生人の成立仮説を検証した結果、中国北部系の人びとの渡来を想定しないと、渡来系弥生人が成立しない可能性など、より複雑なプロセスが存在したことが明らかになった。また関連して6300年前の韓半島南部には、渡来系弥生人に類似した核ゲノムをもつ前期新石器時代人がいたことを明らかにした。

形質人類学的に西北九州弥生人といわれてきた人びとは、DNA分析の結果、在来(縄文)系弥生人と、渡来系弥生人と在来(縄文)系弥生人との混血によって生まれた2

者のあることが明らかになった。またその初現は、これまで紀元前後がもっとも古かったが、前3世紀までさかのぼることを明らかにした。さらに西北九州だけでなく、熊本など九州中部にも存在することを明らかにした。

またこれまで古人骨を対象としたDNA分析が考古学的な調査によって得られる学際的な研究に与える成果としては、親族関係の復元が主流であったが、本研究によって、DNA分析結果と縄文系や弥生系といった土器の系統との間に関連がある可能性を明らかにした。

さらに鳥取市青谷上寺地遺跡から出土した2世紀後半の人骨、約30体のDNA分析を行ったところ、親族関係がほとんど認められないことが明らかになった。これは、2世紀の日本海沿岸には、通常の水田稲作民の村とは異なり、都市的住民から構成される都市的な村が存在していたことを明らかにした。

古墳時代については、DNA分析の結果、1つの石棺内に葬られた多人数埋葬のなか、異母姉妹を埋葬した例を、岡山県内の古墳中期の久米三成古墳で初めて確認した。弥生時代前期に、九州北部と沖縄との間で始まった貝輪の素材となる大型巻き貝の交易が、前8世紀の弥生前期初めに始まっていたことを明らかにした。

これらの研究成果は、国立歴史民俗博物館研究報告第218集、219集、第229集、第234集、第239集に集約して報告済みである。また2023年9月には第242集を刊行予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 29件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 木下尚子	4. 巻 228
2. 論文標題 貝殻集積からみた先史時代の貝交易	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 213 - 246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤尾慎一郎・木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一	4. 巻 228
2. 論文標題 考古学データによるヤボネシア人の歴史の解明 2019 年度の調査1ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 247 - 266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 愛知県清須市朝日遺跡出土弥生人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 267 - 276
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱田竜彦・坂本稔	4. 巻 228
2. 論文標題 鳥取県米子市古市宮ノ谷山遺跡出土弥生後期土器に伴うモモ核の年代学的調査 2	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 309 - 319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧田竜彦・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 島根県出雲市猪目洞窟遺跡出土人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 321 - 327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清家章・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 岡山県倉敷市中津貝塚出土縄文人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 341 - 344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清家章・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 岡山県内古墳出土人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 345 - 360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清家章・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 香川県高松市高松茶白山古墳第 主体部E地区出土古墳人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 361 - 368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧上舞・坂本稔・藤尾慎一郎	4. 巻 228
2. 論文標題 佐賀県唐津市大友遺跡第5・6次調査出土弥生人骨の補正年代について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 375 - 384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中正巳・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 鹿児島県内出土縄文人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 395 - 401
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中正巳・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 宮崎県えびの市島内地下式横穴墓群出土人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 411 - 416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中正巳・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 鹿児島県南種子町広田遺跡出土人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 427 - 432
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中正巳・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 鹿児島県徳之島所在遺跡出土人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 441 - 448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中正巳・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 228
2. 論文標題 鹿児島県奄美群島所在遺跡出土人骨の年代学的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 459 - 464
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤尾慎一郎・木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・竹中正巳	4. 巻 50
2. 論文標題 九州南部～奄美群島出土人骨の年代学的調査とDNA分析 新学術領域研究「ヤボネシアゲノム」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿児島考古	6. 最初と最後の頁 37 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧上舞・坂本稔・藤尾慎一郎	4. 巻 1405
2. 論文標題 福岡市博多区博多遺跡群第203次調査出土弥生中期人骨の年代学的調査について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 博多170 - 博多遺跡群第203次調査報告	6. 最初と最後の頁 316 - 332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱田竜彦	4. 巻 25
2. 論文標題 共存にはじまる山陰の弥生時代 - 出雲市原山遺跡に関する一試論 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山陰弥生文化の形成過程	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 FUJIO Shinichiro	4. 巻 4-3
2. 論文標題 Early Grain Cultivation and Starting Processes in the Japanese Archipelago	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Quaternary 2021	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清家章・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 香川県高松市高松茶白山古墳出土人骨の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 211-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田康弘・瀧上舞・坂本稔・藤尾慎一郎	4. 巻 9
2. 論文標題 韓国釜山市加徳島ジャンハン遺跡出土新石器時代人骨の年代学的調査について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文物	6. 最初と最後の頁 151-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田康弘	4. 巻 229
2. 論文標題 縄文時代早期の人骨出土例における埋葬属性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国史学	6. 最初と最後の頁 39-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜田竜彦	4. 巻 219
2. 論文標題 鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡出土弥生中・後期人骨の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 147-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜田竜彦・坂本稔	4. 巻 219
2. 論文標題 鳥取県米子市古市宮ノ谷山遺跡出土の弥生後期土器に伴うモモ核の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 179-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下尚子・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 鹿児島県宝島大池遺跡B 地点出土貝塚前期人骨等の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 231-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下尚子・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 沖縄県伊是名村具志川島遺跡群出土貝塚前期人骨の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 265-272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下尚子・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 沖縄県伊江島具志原貝塚出土貝塚後期の貝殻集積の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 273-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下尚子・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 沖縄県読谷村所在遺跡出土貝塚後期の貝殻集積と人骨等の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 277-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下尚子・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 「沖縄県うるま市所在遺跡出土貝塚時代の人骨と貝殻集積の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 301-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下尚子・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 「沖縄県北谷町所在遺跡出土貝塚後期の貝殻集積の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 313-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下尚子・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 沖縄県宜野湾市新域下原第二遺跡出土の貝殻集積の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 327-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下尚子・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 沖縄県浦添市所在遺跡出土貝塚後期の貝殻集積の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 333-338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 大阪府東大阪市山賀遺跡第5次調査出土弥生中期人骨の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 130-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞	4. 巻 219
2. 論文標題 福岡県那珂川市安德台遺跡弥生中期人骨の年代学的調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 189-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 藤尾慎一郎・木下尚子・清家章・瀧田竜彦・坂本稔・瀧川舞・篠田謙一
2. 発表標題 新学術領域研究「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明 2019年度活動報告 -
3. 学会等名 日本考古学協会第86回研究発表
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・宮本一夫
2. 発表標題 佐賀県大友遺跡8号支石墓出土人骨のDNA調査
3. 学会等名 令和2年度九州考古学会総会研究発表
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田康弘
2. 発表標題 西広貝塚・古作貝塚出土人骨の年代測定値からみた埋葬小群の形成過程
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清家章
2. 発表標題 古墳時代における海辺の埋葬遺跡とその意義
3. 学会等名 紀伊考古学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浜田竜彦・坂本稔・瀧上舞
2. 発表標題 青谷上寺地遺跡出土の弥生時代人骨について
3. 学会等名 考古学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木下尚子
2. 発表標題 縄文文化と沖縄の貝塚文化
3. 学会等名 沖縄県考古学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 清家 章	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 256
3. 書名 卑弥呼と女性首長（新装版）	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館、藤尾 慎一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 224
3. 書名 再考！ 縄文と弥生	

1. 著者名 藤尾 慎一郎、松木 武彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 210
3. 書名 ここが変わる！ 日本の考古学	

1. 著者名 藤尾慎一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 299
3. 書名 日本の先史時代	

1. 著者名 山田康弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社現代新書	5. 総ページ数 325
3. 書名 縄文時代の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ヤポネシアゲノム
<http://yaponesian.org/>
 考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明
<https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/subsidy/2018/yaponesian.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浜田 竜彦 (Hamada Tatsuhiko) (20840143)	明治大学・研究・知財戦略機構(駿河台)・研究推進員 (32682)	
研究分担者	山田 康弘 (Yamada Yasuhiro) (40264270)	東京都立大学・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	清家 章 (Seike Akira) (40303995)	岡山大学・社会文化科学学域・教授 (15301)	
研究分担者	木下 尚子 (Kinoshita Naoko) (70169910)	熊本大学・大学院人文社会科学部(文)・名誉教授 (17401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------